



期の炉別生産は、転炉鋼が前年同期比 0.1%減の 4,219 万トン、電炉鋼が 4.3%増の 1,304 万トンとなった。鋼種別では、普通鋼が 0.3%減の 4,264 万トン、特殊鋼が 5.3%増の 1,259 万トンであった。

財務省発表の 6 月鉄鋼貿易統計で、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 2.1%減の 358 万 6,000 トンとなり 10 カ月連続で減少した。タイの混乱などでアジア向け輸出が減速したためだが、前月比では 2.4%増で 2 カ月連続の増となった。全鉄鋼輸入は、前年同月比 34.8%増の 73 万 9,000 トンで、8 カ月連続して前年比増となった。

主要国・地域別の輸出は、ASEAN 向けが 102 万 6,000 トン（前年同月比 7.2%減）となり 9 カ月連続減、アジア NIE's 向けは 101 万 1,000 トン（同 12.0%減）で 7 カ月連続の減、中国向けは 51 万 2,000 トン（同 5.0%増）、中東向けは 23 万 6,000 トン（同 28.4%増）でともに 3 カ月ぶりの増加となった。米国向けは 20 万 5,000 トン（同 18.6%増）で 2 カ月連続の増加となった。主要な国・地域別輸入は、アジア NIE's からは 39 万 4,000 トン（同 27.5%増）、中国からが 17 万 5,000 トン（同 91.7%増）で、中国からの増勢が際立っている。この結果、2014 年上期の全鉄鋼輸出は前年同期比 7.2%減の 2,058 万 9,000 トンと 2 年ぶりの前年割れとなり、全鉄鋼輸入は同 39.6%増の 468 万トンで特に中国からが倍増し、98 万 2,000 トンとなっている。

#### ◆7～9 月粗鋼需要微増——経産省見通し

経済産業省が策定した 2014 年度第 2 四半期（7～9 月）の鋼材需要見通しによると、出荷相当の粗鋼需要量は前期実績見込み比 0.1%増の 2,796 万トンとわずかながら 2 四半期連続で増加する。鋼材需要は前期比 1.8%増の 2,425 万トンで、うち国内は 2.1%増の 1,603 万トン、輸出は 1.2%増の 821 万トンと見込んでいる。

普通鋼鋼材の需要は、建設関連では公共土木が季節要因で前期比 16.3%増、前年同期比でも 3.7%増、民間土木が期ずれでそれぞれ 6.2%減・1.9%減の見込み、住宅建築は消費増税前の駆け込みの反動などで 2.5%減・16.4%減、非住宅建築は物流倉庫などが好調で前期比 2.9%増、高水準だった前年同期比では 3.8%減の見通しで、建設合計では前期比 3.6%増、前年同期比 5.5%減の 552 万 4,000 トンと見通している。製造業向けの需要は、回復傾向の造船は前期比 0.7%増、前年同期比 6.0%増と見込み、自動車は受注残対応や在庫補充などで生産が高かった前期を受けて前期比 0.1%増と横這い、前年同期比 0.6%減の微減となっている。第 2 四半期の普通鋼鋼材輸出は、前期比 1.6%増の 645 万トンと見通しており、設備修理などで制約のあった前期の抑制傾向からは増勢となるが、アジアの過剰供給と市況低迷を受けて前年同期比では 5.5%減とみている。特殊鋼鋼材の需要は、国内が自動車関連需要が底堅く前期比 0.5%増、輸出もタイ向けなど減速の一方でエネルギー案件向けの高水準を受けて同 0.1%増と 2 期ぶりの増加見通しとなる。

当見通しによると、2014 年度上半期（4～9 月）の粗鋼生産は前年同期比 0.2%増の 5,591 万トンで、2014 年度も 2 年連続の 1 億 1,000 万トンに達する勢いである。

#### ◆中国鋼材輸出増、貿易摩擦激化

中国税務総署の発表によると、中国の鋼材輸出は 2014 年 1～6 月累計で 4,101 万トンと前年同期比 33.6%増となり、半期として最高を記録し、年率で 8,000 万トンを超えるペースとなっている。国内市場は減速を続けており、増え続ける鋼材生産を吸収しきれないでいる。鋼材市況は下がり続け、鉄鋼企業は割高な輸出にシフトする動きとなっている。例えば、河北鋼鉄集団傘下の唐山鋼鉄は、世界最大のスイスの鉄鋼貿易企業デュフェルコ社

と提携し、年間400万トンの販売契約を締結した。

今後とも大量輸出が続く可能性が高く、国際需給を緩和させ、海外諸国との貿易摩擦が激しさを増すことが懸念される。2013年の中国への鉄鋼貿易摩擦案件は25件であったが、2014年には米国や韓国、ロシア、東南アジアなど7件が持ち上がっている。また、6月18日にはマレーシア政府は中国などの熱延コイルに対するアンチダンピング調査を始めた。日本の中国からの鋼材輸入は2014年1～5月累計で26万トンと前年同期比の1.7倍に急増しており、東南アジアの中国からの輸入は2013年に1,573万トンと5年間で倍近くに増加している。

#### ◆2014年1～6月世界粗鋼生産、8億トン超——WSA

世界鉄鋼協会(WSA)発表の世界(65カ国)の粗鋼生産は前年同月比3.1%増の1億3,712万2,000トンで、5カ月連続の前年比増となった。前月比は2.7%減と2カ月ぶりに減少したが日産量は前月比0.6%増と3カ月ぶりに増えた。操業率は78.3%と前月並みで、前年同月比0.1ポイント高である。中国の6月の日産量は前月比1.7%増と2カ月ぶりに増加し、4月の日産最高を更新した。中国以外は0.5%減と2カ月ぶりに減少した。新興国の日産量は韓国が前月比1.4%増と2カ月ぶりに増え、インドは0.2%増と4カ月ぶりに増加、ブラジルは3.5%減と2カ月ぶりに減少した。先進国では、EU28が1.8%減と2カ月ぶりに減少し、北米が0.1%増と2カ月連続で増加、日本は1.7%減と2カ月ぶりに減った。

表-1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%、出所:世界鉄鋼協会)

	2014年6月	前年同月比	前月比	1～6月	前年同期比
フランス	1,401	( 1.6 )	( 2.5 )	8,305	( 3.5 )
ドイツ	3,557	( 0.6 )	( △9.3 )	22,480	( 4.2 )
イタリア	2,112	( △3.7 )	( △7.7 )	13,060	( 3.0 )
スペイン	1,279	( 6 )	( △2.1 )	7,476	( 0.6 )
イギリス	1,041	( △1.0 )	( 3.2 )	6,143	( 7.6 )
EU27カ国計	14,200	( 0.6 )	( △4.9 )	87,356	( 3.8 )
トルコ	3,124	( 6.7 )	( 2.7 )	17,261	( △0.3 )
他欧州計	3,272	( 5.4 )	( 2.3 )	18,318	( 0.8 )
ロシア	5,888	( 3.3 )	( △1.0 )	34,824	( 0.7 )
ウクライナ	2,564	( △6.0 )	( △9.3 )	15,473	( △6.9 )
C I S計	9,111	( 1.8 )	( △3.7 )	53,905	( △1.0 )
カナダ	1,010	( 5.8 )	( △2.9 )	6,067	( △1.4 )
メキシコ	1,500	( 12.0 )	( △3.0 )	9,503	( 7.8 )
アメリカ	7,228	( 1.9 )	( △3.3 )	43,494	( 0.9 )
北米計	9,848	( 3.6 )	( △3.2 )	59,703	( 1.7 )
ブラジル	2,687	( △4.9 )	( △6.6 )	16,697	( △1.5 )
南米計	3,594	( △6.5 )	( △5.6 )	22,157	( △2.6 )
アフリカ計	1,310	( 0.3 )	( △3.7 )	7,899	( 1.2 )
中東計	2,307	( 6.1 )	( △7.3 )	13,835	( 9.3 )
中国	69,294	( 4.5 )	( △1.6 )	411,909	( 3.0 )
インド	6,732	( 0.8 )	( △3.0 )	41,280	( 1.4 )
日本	9,121	( △1.7 )	( △4.9 )	55,225	( 0.9 )
韓国	6,048	( 10.8 )	( △1.9 )	36,082	( 9.1 )
台湾	1,830	( △1.0 )	( △3.2 )	11,003	( △1.9 )
アジア計	93,026	( 3.9 )	( △2.1 )	555,499	( 2.9 )
オセアニア計	455	( 2.3 )	( 4.2 )	2,678	( △4.7 )
64カ国計	137,122	( 3.1 )	( △2.7 )	821,349	( 2.5 )
*中国以外	67,829	( 1.7 )	( △3.7 )	409,440	( 2.0 )

2014年1～6月の粗鋼生産累計では、前年同期比2.5%増の8億2,135万トンとなり、中国の生産増を背景に、今年も過去最高を上回るペースで伸びている。昨年の世界粗鋼生産は16億700万トンと初めて16億トンの大台を突破したが、今年も上期の生産で推移すれば、16億4,000万トンと5年連続で最高記録を更新する公算が強まっている。 □